

「老舗企業」 山形県内に 931 社

老舗企業出現率 5.44%
全国 2 位が続く

山形県・「老舗企業」分析調査(2025 年)



本件照会先

佐藤 剛喜(調査担当)
帝国データバンク
山形支店
023-622-4301(直通)
yamagata@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/05/14

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

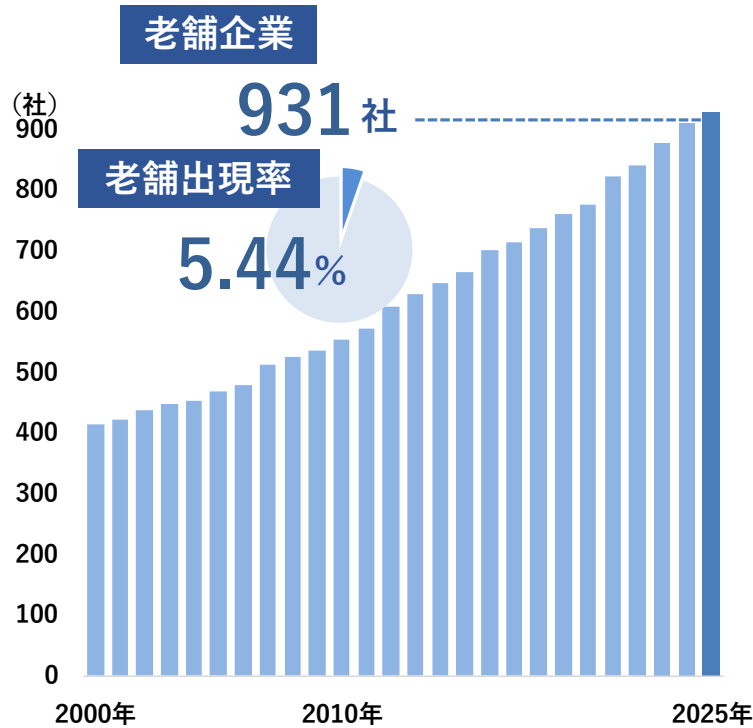
2025 年 12 月時点で業歴 100 年を超える老舗企業は山形県内に 931 社、老舗出現率は 5.44%となった。都道府県別にみると、京都府がトップで、山形県、新潟県が続いた。業種大分類の構成比では、小売業が最も多く、次いで製造業、卸売業の順となった。業種中分類別の老舗企業数でみると、旅館業、清酒製造業、菓子小売業(製造小売業)がトップ 3。2026 年も 60 社程度が新たに老舗企業に加わるとみられる。

帝国データバンクが保有する企業概要ファイル「COSMOS2」(2025 年 12 月時点、約 150 万社収録)に加え、独自で収集し営業の実体が確認できた企業を基に、創業・設立から 100 年以上の企業を「老舗企業」と定義し、分析を行った。
創業時が元号・時代のみ判明している場合には、各元号・時代の最終年を創業年として集計した。

山形県内に老舗企業は 931 社

2025 年 12 月時点で業歴 100 年を超える老舗企業 は、931 社を数えた。現在の NHK がラジオ放送を開始し、普通選挙法が公布された 1925 年(大正 14 年)に創業した 20 社が老舗企業に加わった。老舗企業の割合を指す「老舗出現率」は 5.44%と、5%台が続く。

老舗企業数 推移



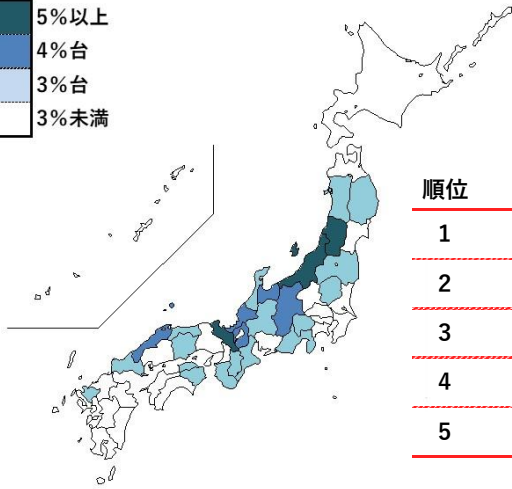
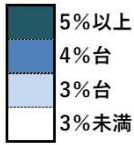
京都府が 5.45%でトップ、山形県は出現率で僅差の 2 位

全国の老舗出現率を都道府県別にみると、京都府が 5.45%でトップだった。古都として栄え、第二次世界大戦中の被害が比較的小さかったことが老舗企業の存続につながっていると考えられる。「温泉どころ」「酒どころ」の山形県が 5.44%、新潟県が 5.07%で続き、3 府県が 5%を上回った。そのほか、日本海側の地域を中心に 5 県が 4%を上回り、全体の 3.11%を上回ったのは 23 府県だった。

一方で、大都市圏は低水準となり、東京都は 2.32%、大阪府は 2.30%、愛知県は 2.95%だった。そのほか、九州エリアでは軒並み老舗出現率は低く、沖縄県は 0.17%にとどまる。なお、同県内の老舗で最も多い業種は「蒸留酒・混成酒製造」の 11 社で、泡盛の製造を手がけている。

また、老舗出現率を市区郡別にみると、10%を超える地域が 10 地域あった。このうち、19.20%と突出して高い京都市東山区をはじめ、4 地域が京都市内に集中した。山形県からは、東北の伊勢と称される「熊野大社」の門前町を擁し、約 930 年の歴史を持つ赤湯温泉が立地する南陽市が 10.02%で 10 位に入った。

老舗出現率 都道府県別／市区郡別上位 10 地域



順位	都道府県	老舗出現率	順位	市区郡	老舗出現率
1	京都府	5.45%	1	京都市東山区	19.20%
2	山形県	5.44%	2	京都市上京区	14.34%
3	新潟県	5.07%	3	千葉県勝浦市	14.05%
4	島根県	4.59%	4	京都市下京区	13.59%
5	福井県	4.56%	5	新潟県加茂市	13.20%
	⋮		6	京都市中京区	12.48%
43	福岡県	1.82%	7	兵庫県美方郡	10.40%
44	鹿児島県	1.69%	8	山梨県西八代郡	10.31%
45	神奈川県	1.63%	9	千葉県銚子市	10.28%
46	宮崎県	1.56%	10	山形県南陽市	10.02%
47	沖縄県	0.17%			

老舗企業の件数では旅館業がトップ

判明している現在の業種大分類別の構成比で見ると、最も多いのは小売業で老舗企業全体の 30.5% を占めた。次いで、製造業(22.8%)、卸売業(15.5%)となり、この 3 業種で 7 割近くを占めている。山形県の企業全体では建設業やサービス業、製造業が多く、老舗企業は小売業や卸売業が多いことがわかる。

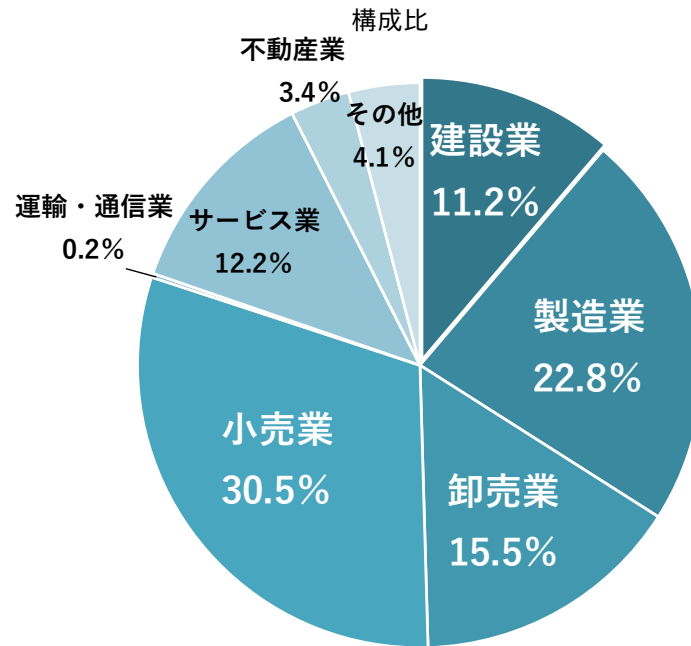
また、業種中分類別の老舗企業数で見ると、旅館業が 57 社で最多となった。

山形県は、蔵王連峰、吾妻連峰、鳥海山といった火山群に囲まれており、古くは平安時代から続く温泉が各市町村に点在している。こうした歴史を背景に、湯守から温泉旅館へと発展した企業も多くみられる。

江戸時代までは、酒田港を中継点とした最上川水運が盛んで、最上川沿いには、交易品である紅花や米を収蔵する蔵が数多く存在していた。明治期に入ると、経済の主軸が米から西洋型の貨幣経済へと移行し、これらの蔵を転用する形で酒蔵が相次いで創業された。また、時代の変化に対応し、「レギュラー酒」から「吟醸酒」などの高級酒へとシフトする取り組みが業界全体で進められてきたこともあり、多くの酒蔵が現在まで事業を継続している。その結果、清酒製造業は 40 社で 2 位となった。

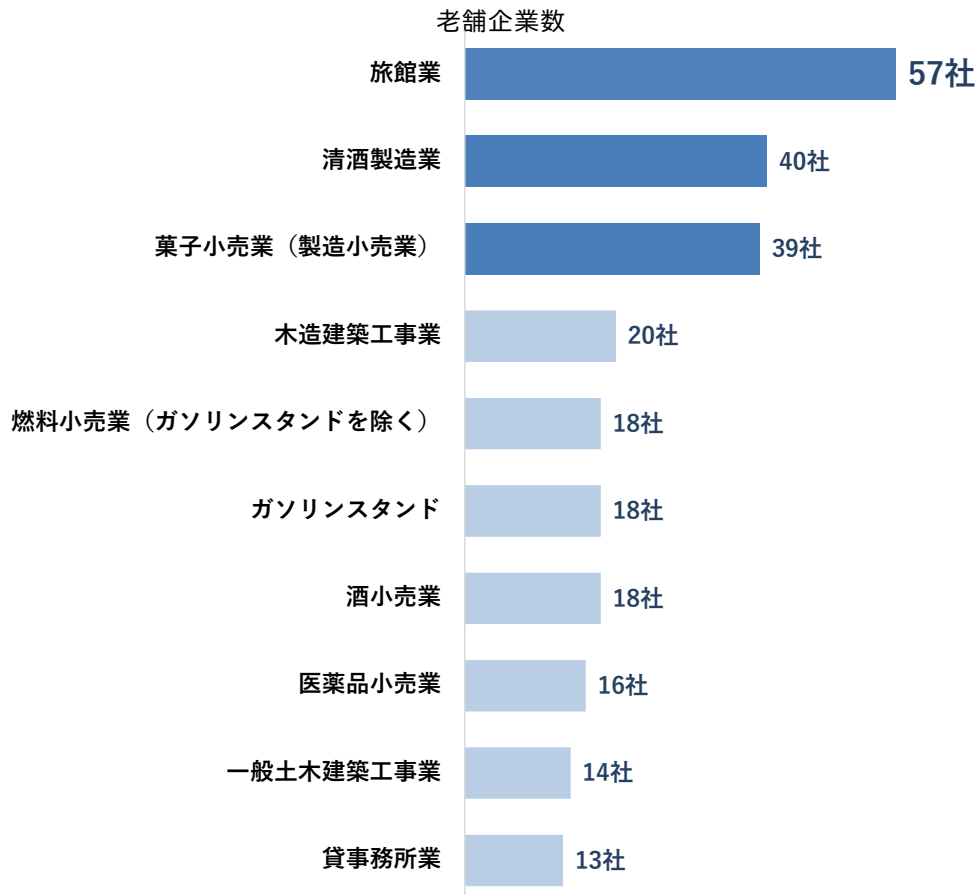
3 位は清酒製造業と 1 社差の菓子小売業(39 社)だった。山形県では、城下町や最上川水運の船着き場周辺を中心に、古くから茶とともに甘味を薬として提供する商家が存在していた。近世以降は、庶民も味わえる地域に愛される甘味が開発され、現在に至るまで、地域ごとの銘品を伝える菓子店が残っている。

老舗企業 業種大分類別



注: 小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

老舗企業 業種中分類別上位10業種

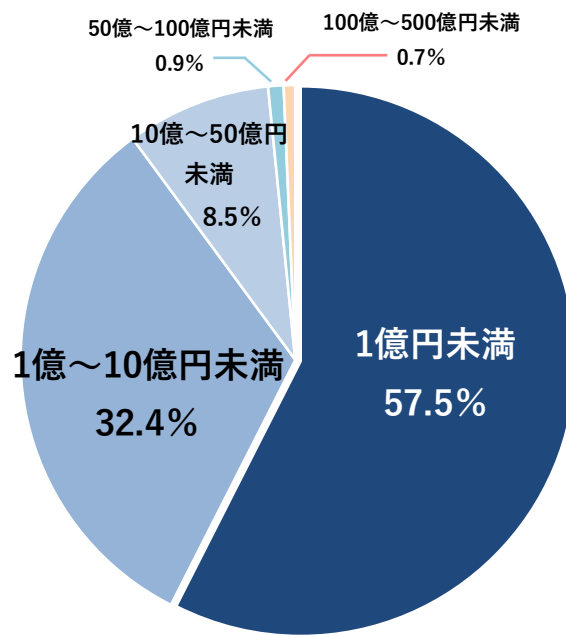


売上高 10 億円未満が約 9 割を占める

売上高が判明している老舗企業を売上規模別にみると、「1 億円未満」が 57.5%、「1 億～10 億円未満」が 32.4%と、10 億円未満が約 9 割を占める。規模は小さくとも着実に長く事業を続けているケースが大半を占めた。

一方で、売上高 10 億円以上の構成比は合計で 10.1%にとどまり、規模が大きいほど小さくなる傾向が示された。

老舗企業 売上高構成比



主な老舗企業

最古の企業は、圧力・流量計等製造の「伊藤鉄工」(鶴岡市)で、1189 年(文治 5 年、鎌倉時代初期)に神社仏閣向け鋳物師として創業、業歴は 830 年以上に及ぶ。吾妻山中の秘湯である姥湯温泉で旅館を営む「榊形屋」(米沢市)は、室町時代の 1533 年(天文 2 年)の開湯という。2 社ともに、長寿企業として長い歴史を現在につないできた。

また、2025 年に 100 年の歴史を紡ぎ老舗となった企業には、ベニヤ合板や新建材、インテリア資材などの建設資材卸を主体として内装工事も手がける「カネフル」(山形市)、保育園5カ所と高齢者福祉施設の経営のほか、学童保育施設の受託運営などを行い地域の福祉を担う「双葉会」(南陽市)などが挙げられる。

主な老舗企業

企業コード	商号	所在地	創業年 (西暦)	主業名
170013286	伊藤鉄工株式会社	鶴岡市	1189	圧力・流量計等製造
395053142	有限会社榊形屋	米沢市	1533	旅館
160127327	株式会社とみひろ	山形市	1578	呉服・服地小売
160000300	株式会社ふじや富宏商事	山形市	1578	織物卸
160038325	株式会社菊地保寿堂	山形市	1604	銑鉄鋳物製造

まとめ

山形県の業歴 100 年を超える老舗企業は 931 社となり、老舗出現率は 5.44%と全国 2 位が続いた。

2025 年は 3 社(負債 1000 万円以上)の老舗企業が倒産している。価格転嫁が進まない企業や後継者不在企業の倒産があった。老舗企業を含む業歴 30 年以上の倒産件数は 45 件で業歴別では最も多く、全体の 51.7%と半数以上を占めた。老舗企業において資金繰りに課題を抱えている企業は決して少なくない。

長く事業を続けるには、時代のニーズを的確に捉え、製品開発や新技術の導入、販売経路の開拓など新たなことに取り組み続けなければならない。日本の老舗企業は、海外の経営者が学びに来日するほど注目されており、災害や戦争など危機的状況を乗り越えてきた老舗企業から学べることは多い。2026 年に創業 100 年を迎える企業は 60 社程度であり、廃業や倒産などで存続できなくなる企業も一定数はみられるが、今後も山形県の老舗出現率は維持される見通しである。